



スカイビル眼科

**先進医療機器導入と
ホスピタリティの向上により
患者さまの「心の満足」を目指す**

巨大ターミナル・横浜駅近隣で先進眼科医療を提供するスカイビル眼科。先進医療を提供する院内設備、集った眼科医やスタッフ全てはホスピタリティの向上を目指すため、「患者さまファースト」の医療空間が整えられている。

先進眼科医療を担う フェムトセカンドレーザー

横浜駅に隣接するビルで先進医療機器を積極導入し、年中無休、夜8時までの眼科診療を行い、幅広い年齢層や職業の方に支持されてきたスカイビル眼科。

同院は眼科一般の様々な症状を診療しつつも、特に多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術の先進医療施設として厚生労働省に認定され、白内障の治療に力を入れている。



院長 秦 誠一郎

はた・せいいちろう／日本眼科学会認定眼科専門医。1990年東邦大学卒業、同年慶應義塾大学医学部眼科学教室入局、足利赤十字病院眼科医長、大和市立病院眼科医長、スカイビル眼科医院副院長を経て2011年現職に。

先進医療の核に据えているのが、2017年5月に導入したフェムトセカンドレーザー（カタリス）による手術。同治療器は1000兆分の1秒の赤外線レーザー光を照射して照射部位を切断するといふものだ。

従来の白内障手術の一般的な手順は、麻酔後にナイフで角膜に創口を作り、針及びピンセットで水晶体を包んだ囊の表面を丸く切開し、現れた水晶体を超音波で細かく分割、分割した水晶体を吸引、最後に除いた水晶体の代わりに囊

の中に眼内レンズを挿入するといふもの。フェムトセカンドレーザーは角膜切開から水晶体の分割までを行うことができる。

「この治療の利点は、従来の手術法を超えた正確性が期待できます。特に水晶体の位置情報は真円に切開することが大切ですが、それが叶えられる機器です」と語る秦誠一郎院長。眼内レンズの性能を十分発揮させるためには、レンズを眼の中心に固定することが重要。そのため水晶体前囊を真円で切開することが必要になる。さらに、機器に備わる3D-OCT（三次元光干渉断層画像診断装置）が、眼内を限なくスキャンし立体構造を構築。水晶体の位置情報を取得して、レーザーによる適確な水晶体切開をサポートしている。

「従来は超音波だけで水晶体を砕いていましたがフェムトセカンドレーザーを用いて、予め水晶体を立体的に切断する為、手術中の超



先進機器を連携使用し 効果的な手術を実現

音波使用量を約半分に軽減できます。それにより、角膜内皮細胞へのダメージを軽減でき術後の炎症も少なくなる為、早期より視力回復が期待できます」と語る秦院長は続けて、「白内障を生じている水晶体は人により硬さや型が違う

ので、治療経験を積んだ眼科医による確認も必要です。先進機器と熟練眼科医のコラボレーションがあつてこそ、患者さまが満足される医療が提供できるのです」と、医療機器の技術と眼科医の経験の融合の大切さを強調する。

白内障手術をサポートする他の先進機器としては、国内で初めてベリオンと県内で初めてセンチュリオンを導入している。

「ベリオンは良好な裸眼視力を得るための手術計画を立て、術中にデジタルでガイドするシステムです。角膜の乱視を治すための機械ですが、乱視用レンズを何処に入れるか、術前に計画した切開位置、レンズの中心固定位置、乱視矯正レンズの軸を顕微鏡等に表示することができま

す。センチュリオンは白内障になった水晶体を超音波で破砕、吸引する装置。「従来の装置に比べ熱の発生が少なく、眼への負担を抑えています。眼内圧をモニタリングしながら、器械で加圧して灌流液を流すので、手術中も眼の形状が保たれます」と秦院長。

また同じ白内障でも高度に混濁した過熟白内障などに対してゼプトといわれる先進の前囊切開用の機器も導入されている。さらに網膜硝子体手術装置としてコンステレーションビジョンシステムを導入。切開創の縮小で硝子体手術の安全性を高めている。

**患者ファーストで
目指すホスピタリティ**

スカイビル眼科の医療体制は「ホスピタリティの向上」という理念で語ることができる。

すべては患者本位を実践するために年中無休で診療項目をフルサポートし、そして20カ所以上に及ぶ提携医院と連携して患者の紹介情報交換を行い同じ品質の医療が受けられるようしている。さらには併設する眼鏡店を通して患者の手術後のフォローアップも行っている。

「何があつても「患者さまファースト」。これが当院の治療スタンスであり、向上を目指すホスピタリティの原点であると考えています。必要とされる医師やスタッフの配置、先進機器の導入や新型の眼内レンズの提供など、全てがホスピタリティを向上させる姿勢から行っています」と秦院長は語る。

スカイビル眼科には視機能の検査と訓練を担う専門職・視能訓練士（ORT）が7人おり、彼らやその他スタッフのスキル向上が15



先進医療機器

大学病院と同等の診断機器を設置し
先進の眼科医療を提供する

白内障 Alcon VERION (ベリオン) Image Guided System

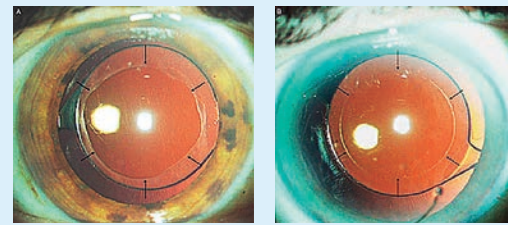
良好な術後視力を目指すために術前に手術計画を立て、術中に狙い通りの視力に近づけるように術者に手術用顕微鏡やモニターでガイドする医療機器。特に乱視矯正や多焦点眼内レンズを挿入する際に有効な機械であり、白内障の手術に備えられることが多い。

白内障 Alcon CENTURION (センチュリオン)

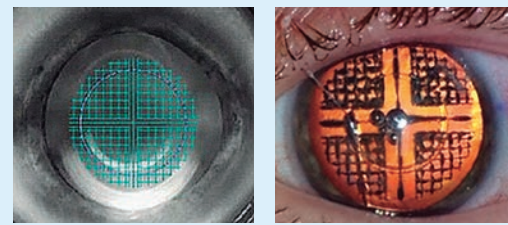
白内障になった水晶体を超音波の振動で砕き、同時に砕いた水晶体を吸引する装置。また手術中に眼の形状を保つために、常に眼内へ灌流液を注入するが、眼内圧をモニタリングできることから、眼内圧の変動による術中のリスクを低減させる。

網膜硝子体 Alcon Constellation (コンステレーション) Vision System

従来の25ゲージから27ゲージという、わずか0.4mmの切開創での硝子体手術を可能にした網膜硝子体手術装置。切開創が小さいために手術による侵襲をさらに抑えることができる。



左▶手作業による前囊(ゼんのう)切開は真円になっていない。右▶カタリスによる前囊切開で真円が作成。



左▶あらかじめ水晶体をサイの目状に細かく分割が可能。照射部位をモニターでカラー表示し、分割パターンを確認し照射する。右▶細かく分割された水晶体。水晶体の吸引時間が早くなり、眼球に対する負担が軽減される。

フェムトセカンドレーザー白内障手術



フェムトセカンドレーザー白内障装置
CATALYS (カタリス)

2017年手術実績(1月~12月)

白内障手術..... **1295件**

白内障手術による多焦点
眼内レンズ..... **202件**

フェムトセカンドレーザーによる
白内障手術(2017年5月~)..**112件**

人の眼科医に正しい患者の情報を共有することで、より安全性に努めた手術につなげる。同院では医師も含め全スタッフが常にスキル向上に努め、眼科医療を通して患者の「心の満足」を作り出せるよう取り組んでいる。

Hospital Data

スカイビル眼科

横浜駅東口徒歩5分 スカイビル9階

神奈川県横浜市西区高島2-19-12 スカイビル9F

TEL.045-461-1675

http://www.yokohama-eyeclinic.com/

診療科目/眼科一般・花粉症・緑内障・白内障手術・近視矯正手術

診療時間/10:00~20:00 年中無休

